

二〇一八年度

史学・地理学会大会報告

二月一日(土)第一学舎五号館E六〇三教室において、二〇一八年度関西大学史学・地理学会大会が開催されました。大学院生・学部生十名が日頃の研究成果を発表し、活発な議論がなされました。また、E六〇二教室において、ポスター発表を行いました。三組の大学院生・学部生がフィールドワークを通じて研究の成果を発表しました。発表終了後に総会が開かれ、会計報告・編集委員会報告・事業報告が承認されました。その後第一学舎食堂において、懇親会が開かれました。

【口頭発表】E六〇三教室

ハトシェプスト研究の現状と展望 —— 王権観念を中心に —— 田村 風沙
基壇外装からみる山背国と近江国の古代寺院について 北川 咲子
7世紀アイルランドにおける「アダムナン法」について 佐藤 舞
京都市における近世から現代への酒造業の立地変動 李 嘉文

【講演】朝鮮半島南部出土の倭系遺物からみた日朝関係 井上 主税 先生
石上・榎井氏が立てる楯戟 前野 智哉

聖武天皇東国行幸 —— 行幸比較から探るその意図・目的 —— 上村 浩立
近代日本での鉄道を使った杜寺参詣と海水浴 松川昭太郎
モンテ・ニユの神学思想と「エセー」 乾 友貴

ワイタング条約 —— イギリスとマオリの認識の相違点 —— 深石 知航
日本における企業城下町と鉱工業地域社会の形成と衰退
—— 中国での適用を見据えて —— 海 思琪

【講演】私の研究流儀とフィールドワーク

伊東 理 先生

【ポスター発表】E六〇二教室

老松場古墳群調査の概要

渡邊貴亮 王 琳婷 北川咲子 田中詢弥
山川聡大 池田 旭 白井彪史 奥田真奈
佐用海輝 中村真里絵

高岡市における歴史的文化景観と銅器産業の伝統と革新
—— 地理学・地域環境学「高岡市実習調査」中間報告1 ——

松井幸一 野間晴雄 齋藤鮎子 中井香月
安田えり 李 嘉文 長沼修平 石渡正敏
桐山哲久 田中竜人 辻本真由 松尾優介
松原太陽

新高岡駅周辺の変容および伏木／富山新港、万葉線の現状と課題
—— 地理学・地域環境学「高岡市実習調査」中間報告2 ——

野間晴雄 松井幸一 齋藤鮎子 海思琪
桑名友太 松川昭太郎 石田大貴 井野 厚
大浦拓 北沢友章 黒木玲衣 外木場浩太郎
辻本 優 丹尾早由里 橋 一輝 花井高志
藤崎 茜 町田路朗 三好拓也 村上綾太郎
湯川悠介 藤田泰資

会員の発表論文目録

(二〇一八年四月―二〇一八年九月、前号までの欠落分を含む)

日本史

家村 光博

「行基の比賣嶋堀川と白鷺嶋堀川」、『史泉』第二二八号（関西大学史学・地理学会）二〇一八年七月

東洋史

池尻 陽子

「内秘書院モンゴル文檔案にみる17世紀アムド東部のゲルク派諸寺院と清朝」、岩尾一史・池田巧編『チベット・ヒマラヤ文明の歴史的发展』（京都大学人文科学研究所）二〇一八年三月

一ノ瀬 雄一

（書評）「平井健介著 東京大学出版会『砂糖の帝国…日本植民地とアジア市場』」、『中国研究月報』72（8）、二〇一八年八月

新谷 英治

「『キタープ・バフリエ』に見える祈りの場」、『関西大学東西学術研究所紀要』51、二一―四六頁、二〇一八年四月

松浦 章

「清代華南沿海における柑橘類の生産と流通」、『関西大学文学論集』68

(2)、九一—一一一頁、二〇一八年九月

『日本統治時代台湾産鮮魚の海外搬出』、『関西大学文学論集』68(1)、三五—五五頁、二〇一八年七月

『1940年代後半における輪船招商局の航運活動』、『関西大学東西学術研究所紀要』51、一三五—一五七頁、二〇一八年四月

森部 豊

(海外調査報告)『唐代幽州盧龍節度使、河東節度使、振武節度使の空間…2017年河北・山西北部調査報告』、『唐代史研究』第二二号、二〇一八年八月、唐代史研究会、二二五—二二〇頁

『蕃将たちの活躍—高仙芝・哥舒翰・安祿山・安思順・李光弼』松原朗編『杜甫と玄宗皇帝の時代』(アジア遊学²²⁰)、一三五—一四六頁、二〇一八年六月

『黒竜江省・吉林省における契丹(遼)・金時代の遺跡の現状と調査…遼・金時代史研究の新しい潮流をめぐって』、『関西大学東西学術研究所紀要』51、四〇五—四二三頁、二〇一八年四月

『唐代前半期における羈縻州・蕃兵・軍制に関する覚書—營州を事例として』、宮宅潔編『多民族社会の軍事統治—出土史料が語る中国古代』(京都大学出版会)三一一—三二六頁、二〇一八年三月

西洋史

朝 治 啓 三

『シモン・ド・モンフォール研究の現在—アンジュー帝国の視点から—』、『関西大学文学論集』67—4、二三—五〇頁

(新刊紹介) G. E. M. Lippiat, Simon V of Montfort and Baronial Government, 1195-1218, Oxford University Press, 2017. xvii, 238 p. 『西洋中世研究』10、二四五—二四六頁

嶋 中 博 章

『マザラン 国家の財政難を利用して莫大な富を築く』、堀越孝一編『悪の世界史 西洋編(下)』(清水書院)、二三六—二四七頁、二〇一八年四月

森 本 慶 太

(書評)『南直人著『食』から読み解くドイツ近代史』、『パブリック・ヒストリー』(大阪大学西洋史学会)第13号、二二七—二二二頁、二〇一六年二月
『1930年代スイスにおける観光業の危機と再編—スイス観光連盟の設立と事業内容を中心に—』、『パブリック・ヒストリー』(大阪大学西洋史学会)第14号、一一—二六頁、二〇一七年二月

(新刊紹介)『森田安一著『ハイジ』の生まれた世界—ヨハンナ・シュペーリと近代スイス—』、『史学雑誌』(公益財団法人史学会)第126編第10号、一二二頁、二〇一七年一〇月

(研究ノート)『第二次世界大戦期スイスにおける「観光論」の形成—W・レプケとの関係性を手がかりに—』、『ゲシヒテ』(ドイツ現代史研究会)第11号、三一—四〇頁、二〇一八年四月

地理学・地域環境学

堀 内 千 加

『十勝地方の農業地域区分と畑作農業の展開』、『史泉』第一二八号(関西大学史学・地理学会)二〇一八年七月

山 岡 真 一 郎

(書評)『イアン・ゲートリー著 黒川由美訳『通勤の社会史 毎日5億人が通勤する理由』』、『史泉』第一二八号(関西大学史学・地理学会)二〇一八年七月

関西大学史学・地理学会 2017 年度（平成 29 年度）収支決算報告

（2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日）

	費 目	金 額	前年度比
収 入	前年度繰越	5,037,682	△412,286
	会費	323,000	△55,000
	史・地大会戻入	0	△21,941
	バックナンバー売上	19,500	1,500
	抜刷代	0	△7,344
	郵便代戻入	1,310	620
	利息	2	△9
	収 入 合 計 (除く繰越金)	5,381,494 343,812	
支 出	『史泉』印刷費（126・127 号）	563,760	△138,024
	史泉発送費	56,142	△1,710
	『史泉』封筒代（角 3 号 3,000 部）	0	△56,700
	学会封筒代（長 3 号）	14,040	14,040
	振込手数料	864	432
	大会費補助	8,932	8,932
	通信費	13,582	4,999
	謝金	49,700	2,100
	消耗品費	670	249
	日歴協会費（3 年分）	0	△15,000
	慶弔費	0	△21,600
	単年度支出	707,690	△202,282
	次年度への繰越	4,673,804	△292,178
	支出合計	5,381,494	

2017 年度も収支決算は、上記の通り適正に行われたことを認めます。

2018 年 11 月 20 日 監査 文珠省三

2018 年 11 月 20 日 監査 黒田一充